

平成 28 年度 大阪産業大学附属中学校 学校評価

1 めざす学校像

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」は、平凡な日常生活をきちんと送っていくことこそ偉大なことである、地道にたゆまず努力していくことは偉大なことであると教えています。

1 学年 2 クラスという小規模校の利点を活かして、一人ひとりに目を行き届かせ、「偉大なる平凡人たれ」との建学の精神に基づき、地道にたゆまず努力していくことを大切にする教育を行っていきます。

また、「楽しいだけでは学校ではない。楽しくなければ学校ではない」と考え、年間を通じてさまざまな行事を行い、生徒が多くのかつことを体験することによって、楽しい学校生活、笑顔あふれる学校生活をつくっていきます。

2 中期的目標

1. 教学改革

- (1) カリキュラムの改定
- (2) 人格の形成をめざして
- (3) 生活指導の充実
- (4) 課外活動の活性化
- (5) 国際理解教育の推進
- (6) 大阪産業大学ファミリーの構築

2. 進路指導の発展

- (1) 進路指導部の充実
- (2) キャリア教育の充実

3. 広報

- (1) 優秀な生徒の確保
- (2) 入試広報の充実
- (3) 入試渉外活動の充実

4. 人材育成

- (1) 優秀な職員の確保と研修の促進

5. 経営改革

- (1) 財政基盤の確立
- (2) 学校規模の適正化
- (3) 施設設備の充実

6. 防災・安全対策

- (1) 防災対策の徹底
- (2) 安全対策の徹底

7. 学校運営

- (1) コンプライアンスの遵守
- (2) 情報開示

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校評価委員会からの意見
○生徒 別紙「2016年度 アンケート結果のご報告」参照 ・「授業アンケート」の結果 ・「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果 ・「学校生活についてのアンケート」の結果	別紙「2016年度 学校関係者評価」参照

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教学改革	(1)カリキュラムの改定 ア. 学校行事の見直し	<p>「楽しいだけでは学校ではない。楽しくなければ学校ではない」と考え、年間を通じてさまざまな行事を行い、生徒が多くのことを体験することによって、楽しい学校生活、笑顔あふれる学校生活をつくっていきます。</p> <p>4月 新入生宿泊研修 5月 3年ニュージーランド研修、校外学習 6月 芸術鑑賞 7月 1・2年体験宿泊研修、3年勉強合宿 9月 体育祭 10月 校外学習 11月 文化祭(梧桐祭)、文化発表会 1月 2年スキー研修 2月 1年百人一首大会</p>		<p>心も体も大きく成長する中学生だからこそ、年間を通じてさまざまな行事を行い、多くのことを体験するようにしました。そのことが、楽しい中学校生活、笑顔あふれる中学校生活につながっています。文化祭や体育祭などの行事を仲間とともにつくりあげた喜びは、子どもを大きく成長させています。</p>
	イ. 学習効果の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの実施 ・授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケートの実施 	アンケート結果	<p>「生徒が主体的に学習に取り組むためにどのようなしていくのか」が本校の大きな課題となっており、引き続き取り組んでいきます。</p>
	(2) 人格の形成をめざして ア. 徳・知・体「三位一体教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭への取り組み ・文化祭(梧桐祭)への取り組み ・文化発表会への取り組み 	ホームページに掲載している体育祭・文化祭(梧桐祭)・文化発表会の動画	<p>授業、各種講座、体育祭・文化祭(梧桐祭)・文化発表会等の行事を通じて「三位一体教育」を推進しました。</p>
	イ. 平和・人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識アンケート(5月) ・人権教育週間(6月) ・人権啓発週間(9月) ・人権フォーラム(12月) 	各取り組みの実施	<p>人権意識アンケート(5月)、人権教育週間(6月)、人権啓発週間(9月)、人権フォーラム(12月)に取り組んできました。</p>
	ウ. 「面倒見の良さ」と「厳しさ」の両面から迫る教育の実践	<p>学習の到達度をチェックできるよう、毎日早朝テストを実施します。理解できていないところがあったり、時間をかけて学習していない場合は、個別指導、再テストを行い、着実に学力が定着できるよう指導します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の早朝テストの実施 ・個別指導、再テストの実施 	<p>クラス担任と教科担当者やクラブ顧問、クラス担任と保護者との連携をとりながら、学力・生活指導を進めました。問題を抱える生徒に寄り添う一方で、甘やかせることをせず、指導に当たりました。問題を早期に把握することで解決を早めるよう努めました。早朝テスト、個別指導・再テストを実施し、「面倒見の良さ」とともに「厳しさ」の両面から教育実践を進めました。</p>
	エ. 「褒めて伸ばす」指導の実践			<p>職員会議を通じて「叱るだけではなく、生徒のいいところを褒める」ことを進めています。全校朝礼では、本校生徒に対する外部からの好評価(手紙やメール)を伝え、自信を持たせるようにしました。</p>
オ. 学校行事を通じて生徒の積極性を引き出す		ホームページに掲載している体育祭・文化祭(梧桐祭)・文化発表会の動画	<p>平成28年度においても体育祭・文化祭(梧桐祭)・文化発表会は大きな盛り上がりを見せました。体育祭では、競技前に円陣を組んで気合を入れる姿があらこちらで見られ、国旗・校旗の掲揚・降納の際に校歌が自然発生的に歌われました。</p>	

1 教学 改革	(3) 生活指導の充実 ア. 挨拶の励行	挨拶励行の呼びかけ	・学校関係者評価委員会での保護者・地域住民の方の意見 ・生徒の学校生活アンケート	保護者・地域住民の方々、本校を訪れる塾関係者の方々から「挨拶がきちんとできており、気持ちがいい」との評価を受けています。生徒自身も学校生活アンケートで「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」との設問に90%が好評価をしています。
	イ. マナーやモラルの向上	ネット社会の問題点について生徒が理解を深めるように取り組みます。	生徒・保護者合同の講演会を実施	スマートフォン等、端末機の使用による問題点について、生徒・保護者を対象として専門家による講演会を実施し、注意を促しました。
	ウ. 個性を伸ばす生徒指導の実施			小規模校の利点を活かし、生徒一人ひとりの個性を重視した指導に努めました。
	(4) 課外活動の活性化 ア. 文化・芸術活動の充実		クラブ加入率	クラブ加入率は7割以上であり、生徒は積極的に活動しようとしています。 文化祭(梧桐祭)でのクラス展示は、充実したものになっており、また、文化発表会では、合唱・合奏ともに技術的な向上がみられ、生徒が主体となって、より聴かせるものを作り上げてきています。
	イ. 生徒会活動の充実	生徒会執行部への指導	生徒会による週1回の清掃活動の実施	生徒会執行部は、活発に活動しようとしており、指導を強めるようにしました。
(5) 大阪産業大学ファミリーの構築 ア. 中高連携体制の充実	生徒の高校への進学に合わせて担任も持ち上がり、産大附属中学から産大附属高校への進学を更におすすめやすくします。		生徒の高校への進学に合わせて担任も持ち上がるようにしました。	
2 進路 指導 の 発 展	(1) 進路指導部の充実 ア. 生徒の多様な受験(進路)への対応		○進路決定先 内部進学 22名 公立 高津高校、 四条畷高校等、 合計6名 私立 大阪桐蔭高校、 近畿大学附属高校、 明星学園高校等、 合計9名	地道にたゆまず努力することを大切にしており、進路指導に当たっても生徒一人ひとりの希望を叶えることを大切にしています。 中学3年生で、生徒の希望により産大附属高校に内部進学するための効果的な学習が可能な「中高連携コース」と他の高校や系列の大阪桐蔭高校に進学するための「3年受験コース」に分かれることによって、生徒及び保護者の希望する進路の実現に努めました。 ○中高連携コース生の大学進学実績 産大附属中学から産大附属高校へ進学した生徒が、岡山大学に合格しました。

3 広報	<p>(1) 入試広報の充実 ア. ホームページの活用強化</p>	<p>平成 26 年度全面リニューアルしたホームページの活用強化をはかります。校内でホームページを担当する体制を強化し、新たな情報が次々と掲載されるようにします。併せて、Facebook、Twitter の活用を始めるようにしていきます。ホームページの全面リニューアルの上に立ち、紙媒体の広報ツールと電子媒体の広報ツールのバランスを検討するようにします。</p>	ホームページ	<p>最新情報を掲載するようホームページの充実に努めました。 そのホームページに体育祭・文化祭（梧桐祭）・文化発表会の動画も掲載し、本校生徒の元気で明るい姿を多くの人に見てもらっています。 Facebook については、本校独自のキャラクターを設定し、平成 28 年度より運用を始めました。</p>
4 人材育成	<p>(1) 優秀な職員の確保と研修の促進 ア. 優秀な教育職員の確保 イ. 教員研修の設計と運営</p>	<p>中・高合わせて平成 27 年度末から僅か 5 年の間に 12 名、専任教諭数の約 2 割が定年退職することになります。中・長期的な観点から、複数年度の退職者数を、年度を越えて採用できる柔軟な措置を講じることが求められています。 教育研修部の機能を強化し、授業アンケートの結果を踏まえた自己検討がすすむようにしていきます。</p>	<p>専任教諭の採用 授業アンケートの実施</p>	<p>中・長期的な観点を踏まえて、教科・年齢のバランスを考慮した採用を実施しました。 授業アンケートの結果を踏まえ、自己検討を求めました。</p>
6 防災・安全対策	<p>(1) 防災対策の徹底 ア. 防災意識の向上</p>	<p>防災訓練</p>		<p>悪天候のため実施できませんでしたが、防災意識の向上を図るため、1 学期に防災訓練を計画しました。</p>